

地元の農産物を使った昔ながらの味に新たな価値を加えた商品の事業拡大

支援機関 公益財団法人 えひめ産業振興財団 支援内容 新商品開発支援 支援区分 創業支援

株式会社 りんね

事業者概要

社名／株式会社 りんね
代表者名／代表取締役 玉井 大蔵
業種／菓子製造販売業
所在地／西条市丹原町高松甲925-2
資本金／1,000,000円
設立／平成21年12月
従業員数／11名（パート含む）



支援に至る経緯

当社は西条市丹原町で平成21年に設立、地元の米などを活用した菓子（ボン菓子、西条市ではパン豆と呼ぶ）の製造販売業者である。東予地方ではパン豆は結婚披露宴の引き出物に使われる昔ながらの菓子である。当社は玉井氏の曾祖母が住んでいた古民家を改修して事業所とし、自家製の米に独自開発した伊予柑、キャラメルナッツ、チョコレートなど新たなフレーバーの商品を製造販売している。こうした独自性と玉井氏の営業活動が実を結び、売上は右肩上がりです昇している。

しかし、取引先及び売上の増加により新たな課題が顕在化した。古民家での製造は当社のブランドストーリーに不可欠な要素であるが、古い建築物であるが故に食品製造所に求められる衛生管理は十分ではなかった。平成24年、衛生面の強化について公益財団法人えひめ産業振興財団（以下、「財団」という）に相談があり、専門家派遣事業を活用して事業所のハード・ソフト両面における衛生管理の強化を図った。

衛生面の強化を図ったことで、玉井氏はさらに販路開拓に専念できることとなり、愛媛県内のみならず首都圏をはじめ全国で多くの食品店、セレクトショップなどと取引が始まり、さらに売上が増加、当社の認知度も徐々に高まっている。玉井氏はこうした状況を事業拡大の好機と捉え、製造能力の拡大、新商品開発など今後の事業展開について、再度財団に相談があった。

新商品開発は、ギフト需要という既存品と異なるターゲット層を取り込むことを目的としており、中身の開発だけでなく、パッケージデザインも既存品とは変える必要があった。さらに、価格、販路、販売促進なども新たに構築しなければならなかった。

支援内容

・事業計画作成支援

まず、事業の方向性を明確にするために事業計画を作成することを提案した。計画は、玉井氏の思い、当社の強み・地域の特徴、市場の動向などを踏まえたうえで、開発商品のコンセプトを決定し、商品の具体的内容、価格、販路などを検討した。

・助成事業の申請支援

検討した計画のうち、新商品開発については、財団の平成26年度「地域密着型ビジネス創出助成事業（ビジネスデザイン枠）」（以下、「助成事業」という）活用を紹介、申請書のブラッシュアップを行った。

支援の効果

新商品開発は助成事業に採択され、愛媛県産の雑穀を使用した菓子の開発を進めている。新商品は平成27年2月に西条市のJR壬生川駅前にオープンした店舗兼製造所にて販売予定である。

今後の展開

既存品（パン豆）はこれまでの取り組みにより、現在は生産が受注に追いつかない状態となっている。増え続ける需要に対応するためには、生産量のアップが必要である。現在の生産方法を見直して生産性の向上を図ることや、工場の新設も検討している。

一方、新商品については、27年度から作成した計画に基づいて販売を開始する。これまでに築いてきた企業イメージやネットワークを活用しながら早期に販売が軌道に乗るよう取り組んでいく。



事業者の声

当社のような業歴の浅い企業は多くの課題がありますが、助成事業だけでなく、窓口相談や専門家派遣など課題に応じた支援メニューを紹介いただき、課題解決することができました。まだまだ課題はありますが着実に解決しながら事業をさらに発展させていきたいと思えます。



代表取締役 玉井 大蔵 氏

STAFF-VOICE

「ボン菓子なんか売れるのか？」という声が多からずある中、毎年着実に売上を伸ばしている企業です。地域の伝統に新しい価値を付加する取り組みは、参考になるのではないのでしょうか。今後の益々の発展を期待しています。



アドバイザー 越智 豊